

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.171

2014/02/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

雪中も保全作業つづく



枝打ち後の整理作業を手伝ってくれた西浅井中学陸上部の生徒達 (14/01/18)

今冬は、保全作業にとっては積雪量が少なく動き易く助かっています（琵琶湖にとってはマイナス面が多いのですが）。昨秋からの継続でヒノキ林の枝打ちがつづいています。日に日に湿原の周りが見通しよくすっきりとしてきました。今春の来訪者は、明るくなった観察コースから新緑を楽しんで貰えるはず。12月末の降雪積雪を待



食害防止資材の持ち上げ(14/01/29)



天然更新試験地食害防止ネット設置(14/01/29)



北部湿原脇の枝打ち(14/01/18)



南部湿原も食害防止トタン・ネット設置(14/02/01)

って天然更新試験地の食害防止ネットを撤去しました。しかし予想外に積雪量が少なく、シカの侵入が絶えず再生した樹木の新芽（雪面から露出したもの）を喰う被害が続きました。1月下旬には地肌が見えるまでに消雪が進んだため、今後多少の降雪があっても例年通り1mを超す積雪は考えられないため急遽食害防止ネットを設置しました。設置後数日は、ネット近くまでシカは来たものの最近では、天然更新試験地のネットの無い部分にも足跡は見られません。ネット設置が効いているのだらうと思われ

動物の冬場の餌探し

今冬は積雪量が少ないとは言え積雪の森で餌を探すのは並大抵では無い。彼等なりの餌場を探し動きまわっています。



PHOTO BY TOMIOKA

マツ瘤でクモ類を探すエナガ(14/02/11)



積んだ柴のなかで餌を探すルリビタキ(14/02/08)



センサーカメラ

裸地で餌を探すヤマドリ(14/02/03)



ワシタカ類に喰われたノウサギの血(14/01/24)



葉柄のみ喰って葉は残っている

ヒサカキの葉柄のみを喰うノウサギ(14/01/14)



センサーカメラ

ミヤマウメモドキの実を喰うアカネズミ



イノシシがアカガシの実を掘り起こした痕(13/12/15)

南部湿原でノウサギが何者かに喰われた血痕が残っていました。前日にはキツネの足跡とノウサギノ足跡が交差した行跡が観察されたので、今回の血痕は、キツネに喰われたのかと詳細に観察しましたが、ノウサギ以外の足跡もなく、ノウサギの毛



ニホンリスの足跡(14/01/27)

すらも残っていませんでした。このことからワシタカの仲間が捕獲したのだろうと推測しています。



シカがササを喰いにきた行跡(14/01/20)

今冬はニホンリスの足跡が例年に無く度々観察された。その多くはアカマツのある近辺です。マツの実を喰いに来的ためです。シカは、ほぼ毎日同じような時間帯に同じコースで採餌しているように天然更新試験地で観察されました。場所によってはもはや全く青いササの葉が無いのに毎日喰い荒らしている形跡も見られます。観察コースのあちこちで観られる「獣道」は、こうしたシカの高頻度の歩行でできたものと思われます。積雪で静かな世界と思いがちですが、私たち同様日々動いために喰うことを止めるわけにはいかないわけです。